



TITLE:

景氣觀測について

AUTHOR(S):

祭原, 光太郎

CITATION:

祭原, 光太郎. 景氣觀測について. 經濟論叢 1934, 38(5): 1049-1061

ISSUE DATE:

1934-05-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130443>

RIGHT:

京都市大學經濟學會 經濟叢論

第三十三卷 第五號

昭和九年五月一日發行

論 叢

相續税と登録税との交錯……………

法學博士 神戸正雄

節約の矛盾について……………

文學博士 高田保馬

人口稠密の原因觀……………

法學博士 財部靜治

時 論

日蘭會商の諸問題……………

經濟學博士 谷口吉彦

研 究

北海道釀定置漁業に於ける漁場動員……………

經濟學士 岡本清造

相續税の本質……………

經濟學士 三谷道麿

リカルドオの比較生産費說について……………

經濟學士 朴 克 采

景氣觀測について……………

經濟學士 祭原光太郎

說 苑

擴張再生産式について……………

經濟學士 柴 田 敬

肥前有田陶業の發達……………

經濟學士 江頭恒治

附 録

新着外國經濟雜誌主要論題

景氣觀測について

祭 原 光 太 郎

一、企業經營に於ける必要

如何なる商人と雖も、景氣について關心を持たぬものはない。勿論景氣の影響を受くることの多きものと少きものがあるにせよ、彼等が國民經濟の *Eines Glied* として存在してゐる限り、多かれ少なかれ、國民經濟の經驗するかの景氣的動搖に對して無關心であることは出来ない。商賣の本質は、一口で云ふと、安く買つて高く賣ると云ふことである。これは或る意味に於て、景氣の波を巧みに利用することに外ならないと云へよう。¹⁾ 或る商人は次の様に云ふたさうである。
„Der Handel ist die Kunst, Differenzen ausnützen, welche sich aus der Konjunktur ergeben.“²⁾ かしこの言葉は、純粹の投機でない限り、そのすべてが正しいとは云へない。

ドイツの經營經濟學に於ては、ナチスの統制的支配が漸次濃厚となり來つた今日に於ては兎も³⁾ 角、從來謂ゆる利益概念の研究の中心問題の一つは、利益を經營利益と景氣利益とに分離すること、換言すれば、利益源泉の探究にあつたことは周知のことである。⁴⁾ かゝる分離が可能なりや否やは別とし、企業が利潤の獲得を經營上の指導原則とする限り、經營遂行上景氣觀測は必然に要

- 1) Brasch, Konjunkturvorhersage durch Konjunkturforschung Betr. Rundsch. 1925. S. 32.
- 2) Schär, Handelsbetriebslehre. 5. Aufl. S. 400.
- 3) 山本安次郎氏、組織問題としての企業の指導。法と經濟、第一卷第三號、p.81
- 4) Hax, K., Der Gewinnbegriff in der Betriebswirtschaftslehre. 1926. S. 118.
Dusemund, Der betriebswirtschaftliche Gewinnbegriff in seiner historischen

求せられるのである。

景氣に對する關心は、ひとり商人に限つたことではない。消費者も亦、これに對して常に注意を拂はざるを得ない。家計に於ては、効用又は福利と云ふ立場から、景氣觀測に對する切實なる要求が生れて來る。⁵⁾更に國家と云ふ立場からするも、景氣政策はその經濟政策の重要な一項目を形成するが、景氣觀測はかゝる景氣政策の不可缺なる前提をなすのである。

しかしこゝでは立場を先づ企業家に限定する。ところで若し嚴密に企業家の立場から、景氣の問題を取り扱ふことになる、一般景氣よりもむしろ、より直接的なる部門景氣、更に進んでは、當該企業固有の景氣 (Einzelkonjunktur einer Unternehmung) を問題とせねばならない。しかし乍ら、先づその豫備的段階として、一應國民經濟の一般景氣を問題とする。⁶⁾

ドイツに於ける經營經濟學の體系中、景氣觀測は如何なる位置を占めてゐるかと云ふ問題がある。しかし乍ら、經營學の體系が未だ必ずしも確立されて居らず、殊に、經營學の學問的性質自体が問題とされてゐる程であるから、この問題は不可能でもあり、亦無意味でもある。

一般に經營經濟學の立場から、景氣の問題を取扱つたものは、相當の數に上つてゐる。⁷⁾經營經濟學者の手になつたもので特に有名なものとしては、Deutsch の „Konjunktur und Unternehmung“ があり、更に最近 Schmidt が舊著を増補して、„Betriebswirtschaftliche Konjunkturlehre“ (1932) を公にしてゐる。しかしこゝでは唯普通の意味に於る景氣觀測を問題とするに過ぎない。

Entwicklung. 1929. S. 112.

5) Morgenstern, O., Wirtschaftsprognose. 1928. S. 31.

6) J. H. Richardson. Business Forecasting. 1931. p. 16 參照。

7) Centre の經營學文獻目錄 (S. 146. 1931版)、經營と經濟、第二卷第二號 (p. 160) など參照。最近吾國に於ても村本教授監修「經營研究」第二卷第一號は「景氣と經營」なる題目に捧げられてゐる。

企業の立場から、景氣なるものが如何に解されるかを極く簡単に考察しよう。既に早く Schär はその「商事經營學」の第一版(1911年)に於て、景氣が商事經營の上に及ぼす影響を認識しこれを捕捉せんと企てた。⁸⁾ 企業は云ふ迄も無く謂ゆる収益性をその指導原理とするものであるが、かかる収益性に作用するもの、影響するものとしては、幾多のものが擧げられる。収益性に作用するものを假に収益要素と名付けると、それは二つのグループに分つことが出来る。即ち一つは經營內的要素であり、他は經營外的要素である。經營者が意志的に支配し得る經營内部(經營の合理化など)の彼方には、個別經濟の錯綜から生ずる外部の領域が横はつてゐる。景氣はかゝる外部の領域から、企業の生活を本質的に搖り動かす諸力の一つであると考へられる。その限りに於て景氣は「個別經濟の運命に對して決定的なるもの」(Sombert)であり、個別經濟が常に「曝されてゐるところの知ることを得ない、評價することを得ない又支配することの出来ない *äussern Einwirkung*」(Schaffle)である。

二、經濟の構成と運動

經驗對象として吾々に與へられてゐるのは、云ふ迄もなく一つの社會である。吾々はこの様な社會から、ある方法に従つて、經濟社會と云ふ一つの認識對象を形成する。さてかうして作り上げた經濟社會を観察すると、それはまことに動搖變轉極り無き姿と豊富にして多彩なる歴史を有

してゐる。さし當り資本主義經濟を考察する。經濟は資本主義なる段階に入りてより、特に驚くべき急激なる發展を遂げた。人間の關心は、何よりも先づ、この經濟なる生活領域に向けられざるを得ないのである。それは時々刻々に動搖變轉し、瞬時といへども靜止することがない。しかもかゝる絶えまなき動搖攪亂の中にありて、經濟は不斷に成長し發展する。

かゝる不斷に變動して已まざる經濟を理解するために、變動せざる經濟を考へる。それは理解のための方法上の手段である。従つて何處までも一つの假構に過ぎない。變動せざる經濟を靜態と名付けてゐる。極めて單純な靜態の考へらるゝこともあれば、亦複雑な靜態の考へらるゝこともある。かゝる靜態の内容的記述に至つては人に依つて異なる。しかし吾々にとつては、それはどうでもいゝのである。唯、何れにせよ、時間の流れに於て、同一の社會的經濟過程が常に繰返されてゐる若しくは經濟數量間に謂ゆる靜的均衡の状態が存する經濟であると云ふ點に於ては、大體一致してゐるようである。しからばかくの如き經濟の靜態は、如何にして考へらるゝか。

市場經濟は相對抗する諸力の體系である。従つて與件を一定にする時は合理原則の下に競争が十分に行はるゝ限り、經濟循環は一定の落ち着くべきところに落ち着くに至る。靜態は云はゞ競争の行はれ盡した姿であると云ふのが普通の考へ方である。けれどもこゝでは靜態の成立過程を考へること無く、どうかして既に成立してゐるところの靜止的な經濟を想定するに過ぎない。

さてこの様な靜止的な經濟に於ては、先づ與件が一定である。こゝに與件と云ふのは、經濟に

9) 中山伊知郎氏、純粹經濟學(昭和八年)、p. 140。「吾々は經濟の與件を以て、經濟の循環が現實に成立するための基礎的條件を意味するものと解する。」

現實の具體的な内容を與へる基礎と解する。⁹⁾ 單に經濟若しくは經濟循環と云ふだけでは、具體的な内容を持つてはゐない。それはある抽象化された過程若しくは體系を意味するに過ぎない。これに與件を與ふる時、始めてその具體的な内容が規定される。與件には無數のものが數へられる。地域の廣さ、氣候、人口、文化の形態とその水準、社會組織、その社會に於る規範と評價、技術發達の程度などこれ等すべてがこゝに云ふ與件である。これらが具體的な經濟循環の成立する現實の基礎である。

與件の綜合を經濟構造と云ふ。¹⁰⁾ 従つて經濟構造は極めて廣汎な、様々の内容を有してゐる。經濟構造に綜合せられた與件の間には、相互に或る調和が維持せられてゐる。それは云はゞ經濟循環をめぐつて、或る均衡を保つてゐる。例へば、人口、技術並びに自然の間には調和が存せねばならない。しからざる限り、凡そ具體的な經濟循環は成立し得ざることとなるからである。

經濟構造は云はゞ經濟の *Eigenschaften* である。さうしてこれはある見方からすると、二つの方面を意味するものと考へることが出来る。即ち一つは經濟の量的な方面を示し、他は經濟の質的な方面を示す。量的な方面とは、經濟の大いさ、豊かさを意味する。質的な方面とは、云はゞ經濟の體質である。農業國と工業國とでは、¹¹⁾ 又獨占制と自由制とでは、經濟の體質がちがふ。

經濟循環は何時如何なるところに於ても、人間生活のある限り、必ず何等かの形態で存在してゐる。こゝに經濟循環と云ふのは云はゞ「人間の經濟生活の姿の概観」である。¹²⁾ 或は生産、分配

10) 高田教授、經濟原論、(昭和八年) p. 264.

11) M. R. Weyermann, *Dund Kapitalprofit*. 3. Aufl. 1926. S. 9. struktur. 1929. S. 30.

12) 小泉信三教授、經濟原論、(昭和六年、日本評論社版)。經濟循環は云ふまでもなく *Physiokraten* の發見にかゝる。尙 Grünig, F., *Der Wirtschaftskreislauf*. 1933. S. 12. Wygodzinski-Andreae, *Einführung in die Volkswirtschafts-*

消費の社會的體系とも云ひ得よう。それは勿論視角を異にするに應じ、種々なる相を現はして來る。形態こそ異れ、何時如何なる處に於ても存在すると云ふ意味に於て、單に經濟循環と云ふ時には、或る抽象化された、云はゞそれだけでは無内容な一つの過程若しくは體系である。それは人間生活の一領域を形造つて居り、それ自らの固有の法則に従つて常に運動してゐる。經濟循環は抽象化された體系であるとは云へ、實際考察するに當つては、常に何等かの經濟構造を有せる經濟循環を對象とせねばならない。一般に經濟循環が如何にして成立するのであるか、財貨運動乃至は貨幣運動が如何にして惹き起さるゝのであるかは、謂ゆる原論の教ふところである。

經濟循環は一つの函數的依存體系とも見られ得る。靜態に於ては、一切の經濟的數量は相互の間に完全なる調和と均合ひを保つてゐる。それらはすべて緊密に依存し合つてゐる。謂ゆる一般的均衡の状態が成立してゐるのである。經濟循環は亦或る見方からすると、財貨の流れとこれに逆流する貨幣の流れから構成されてゐるとも云ふことが出來よう。ワーゲマンは巧妙なる比喩に依りて、貨幣と財とのこの流れを次の様に叙述してゐる。「經濟は經濟要素の均衡の體系……と解せられたのである。この體系に於ては、吾々は經濟の貨幣側と財貨側とを區別する。假に自分が火星の住民になつて、大望遠鏡を以つて地球を見下してゐると考へたならば、右の區別の可能性がよく理解されるであらう。即ち彼には、炭坑から石炭が搬出され、熔鑛爐が鐵を生産し、耕地に於て穀物が收穫されてゐるのが見える。かくして人間がこれら種々様々な生産物を荷車、船舶

及び鐵道によつて運び去り、更らにこれらを加工し、次で再び運送し、倉庫に收め……遂に消費に到達するのが見えるであらう。……こゝでは生産、運輸、貯藏、外國貿易及び消費が行はれ、これらがすべて財貨側の諸要素を成してゐるのである。併しこの火星住民は、如何にしてかくの如き複雑なる諸行程が行はれ得るかを説明しやうとする場合、彼は大きな謎に突當る。なぜならば彼の望遠鏡によつては、これらすべての働きを補足するところの……契約、勘定の振替、價格の協定、所得及び財産の形式などを認識することができないからである。火星住民に見えないこれらの諸要素を吾々は經濟の貨幣側と云ふのである¹³⁾」

さてかうした經濟循環の中には、諸々の經濟的數量が形成される。例へば商品の價格、勞銀、利子の大きさ、生産量、取引量、貨幣量、手形交換高など一切の經濟的數量がこの中に現はれる。これら諸々の經濟上の數量的な大きさを吾々は變動量と呼ぶ。變動量の大きさは理論的にはこれを、悉く統計的に捕捉し得る筈である。さうしてその大きさは、動態に於ては、時々刻々に動搖する。唯靜態に於ては、一定の大きさを保ちたるまゝ何時迄も動くことがない。

かくして靜態に於ては、與件、從つて經濟構造は一定であり、循環は完全に完結してゐる。すべての變動量相互の間には、完全な均衡が保たれてゐる。時間の經過に於て、常に同一の過程が繰返へさるゝのみで、何等の攪亂も生ずることなく、一定不動の秩序が維持せられてゐる。しかし乍ら現實に於ては、何時如何なる處に於ても、かくの如き經濟の姿を見出すことは出来ない。

13) 萩原謙造・望月敬之助兩氏邦譯、ワーグマン、景氣變動論入門、1932. S. 33.

先づ與件が變動する。これに應じてその綜合たる經濟構造が變る。先づ與件の變動のみを考察する。與件は、前述したる如く、經濟循環にその具體的な内容と與ふる基礎である。かゝる與件には、不變的なものと可變的なものがある。¹⁴⁾ 不變的なもの(例へば土地の廣さ)はこゝでは云ふ迄もなく問題とはならない。可變的なものゝみにつき、その變化する形態の上から見ると、次の様に區分することが出來よう。

- 1、不斷に持續的に變化するもの(人口の増加、技術の進歩)
- 2、週期的に變化するもの(太陽の黒點)

- 3、一回限りの、不規則的若しくは偶然的に變化するもの(天災、戰爭、新市場の獲得)

與件は亦、經濟循環に對して與件の側から唯一方的にのみ作用するものと、經濟循環と與件との間に相互作用の認めらるゝものがある。前者に屬するものとしては、例へば震災がある。この種に屬する與件の變化は、經濟的には全く偶然であり、從つて經濟法則とは何等の關係がない後者即ち相互作用の見らるゝものには數多のものがある。人口の増加、技術の進歩などもこれに數へられる。或は社會組織の變革なども擧げることが出來よう。これ等は何れも、與件の側と經濟循環との間に相互作用の認めらるゝものである。唯何れにせよ一般に、與件の變化が經濟循環に何等かの攪亂を惹き起すことは疑ひない。

與件の綜合が經濟構造である。從つて與件が變動するに應じて、經濟構造も亦變化する。經濟

14) Walter Simon, Arbeit-markt und Konjunktur. 1932. S. 9.

構造の變化を簡單に構造變化と云ふ。先に述べたる如く、經濟構造は云はゞ經濟の體質と大いさを現はす。従つて構造變化は一方では、國民經濟の量的な變動を、他方では、その質的な變動を意味するのである。けれどもこゝに云ふところの經濟構造は、前述したる如く、種々様々なる内容を含んでゐる。従つてこれを如何に整理すべきかは甚だ困難なる問題である。領土の擴張は、それが經濟循環の成立する基礎たる限りに於て、國民經濟の量的擴大である。これに反して、その國の指導的思想の變革、技術の進歩による生産力の發展、カルテル運動、新しき經營形態の發生、關稅障壁による貿易系統の變化等は、國民經濟の質的變化を意味する。構造變化はこれら二つの方面を含んでゐる。

經濟構造の變化が經濟循環に何等かの攪亂を惹き起すことは云ふ迄もない。しかし乍ら構造變化は、かゝる循環の攪亂そのものとは異なる。經濟構造の變動過程と循環の攪亂過程とはその領域を異にしてゐる。構造變化は經濟循環の具有する特質と容量とを問題とするのであるが、循環の變動若しくは攪亂は、かゝる特質と容量とを備へた經濟循環の變動そのものを問題とするのである。

經濟循環の變動は、先づ變動せざるものに對立する。これには大體二つの場合を考へることが出来る。一つは經濟循環が、何等經濟數量間の不均衡即ち攪亂の生ずることなしに、膨脹若しくは收縮し得る場合である。これには先づ Moore, Cassel を舉げることが出来よう。何れにせよ一定

の條件の下にありては、經濟循環は攪亂を惹き起すこと無しに發展し得ると考へられる。他は經濟數量間の不均衡即ち攪亂の現はるゝ場合である。従つてこゝに攪亂と云ふのは、經濟數量間の不均衡即ち均衡の破壊を意味する。かゝる意味に於る循環過程の攪亂を吾々は景氣運動と名付け、景氣運動は經濟循環の一般的攪亂である。この際個別經濟を中心として見るか、市場を中心として見るか乃至は全體的に見るかに應じ、景氣の本質規定に關する表現が色々に分れて來る。景氣理論は如何にして經濟循環に一般的攪亂が生じ得るかを明かにするものであるが、しかし理論に於ては、幾多の條件(與件)が捨象せられてゐるのであるから、直ちにこれを現實の具體的な經濟に適用することの出來ないのは云ふ迄もない。

經濟構造が具體的な經濟循環の成立し得る基礎であると解せらるゝ限りに於ては、經濟循環の何等かの變動は何等かの構造變化を伴ふことが多い。この際經濟構造の變化が、經濟循環に何等かの變化を惹き起すことは疑ひ無いが、逆に經濟循環の變動が經濟構造の變化を必然的に伴ふとは、こゝでは必しも云ひ得ない。こゝではこの二つの間に相互作用の認めらるゝ場合があると云ひ得るに過ぎない。或る場合には、經濟構造が一定であつて、しかも經濟循環自體が或る程度まで自動的に動搖すると云ふことも考へられる。嚴密に云ふところでは、現實の經濟に於ては、與件が絶えず變化する。これに應じて經濟構造も亦不斷に變化する。他方經濟循環自體も亦、不斷に動搖攪亂を續けてゐると云ふことが、外面上觀察されると云ふにとゞまる。この二つのものが如

- 15) Preiser, E., Gröndzuge der Konjunkturtheorie. 1933. S. 14.
- 16) Handwörterbuch der Volkswirtschaftslehre. S. 600. Konjunktur, Konjunkturtheorie.
- 17) 小島昌太郎教授監修邦譯、ワーゲマン、「世界經濟機構と景氣變動」(昭和七年) p. 18.
- 18) Handwörterbuch der Volkswirtschaftslehre. S. 600.

何なる關係に立つてゐるかは、更に立ち入つて分析せねばならない。

しかし乍ら普通に經濟構造と云ふ時には、必ずしもかゝる意味に解されてゐるわけではない。

或る場合には、Datenkonstellation 若しくは Datensystem と呼ばれ、經濟理論、特に景氣理論の出
發點として置かるゝものを意味することがある。¹⁵⁾ ある場合には、吾々の意味する經濟構造から、
更にその特質的なものゝみを抜き出して、これを指すことがある。さうして經濟構造をかゝる
意味に解するのがむしろ普通である。例へば Diel は „Unter Strukturwandlungen sind tiefe-
hende einmalige Wandlungen im ganzen Aufbau der Wirtschaft eines Volkes……zu verstehen“ と
述べてゐる。¹⁶⁾ フーゲマンは經濟構造の外に經濟組織なる概念を設けてゐるが、これが大體それに
當るのであらう。¹⁷⁾ かく解される時に始めて、„stellen die Konjunktur lediglich Wandlungen der
Marktlage bei gleichbleibenden Gefüge der Wirtschaft selbst dar. Die Strukturveränderungen ein-
maliger Art K. wandlungen kontinuierlicher Art.“¹⁸⁾ と云ひ得るのである。

循環過程の攪亂を因果的に認識するのが景氣理論である。従つて景氣理論は、攪亂を惹き起す
ところの直接の原因と攪亂の生ずべき一般的條件¹⁹⁾並びに攪亂の生じ行く過程を明かにせねばなら
ぬ。從來景氣理論は、次の如き二ヶの問題に答へねばならなかつた。即ち(一)は、如何にして經濟
循環が、「一般的、連帶的」(Lowe)なる上昇並びに下降の運動をなし得るや、(二)は如何にしてか
ゝる攪亂運動が、規則的に回歸し得るやと云ふことである。²⁰⁾ しかるに戦後、景氣理論の課題は次

19) 「基礎的條件とは景氣變動の起り得る可能性を與ふる諸條件であつて、これ
なくては景氣變動は現はれないが、而もこれだけでは變動を惹き起すには
足りないものである。」大阪商大經濟學辭典、景氣變動、(谷口吉彦教授)。
尙、Röpke, Krise und Konjunktur. 1932. S. 51. Die allgemeinen Störungs-
quellen 參照。

20) Lutz, F., Das Konjunkturproblem in der Nationalökonomie. 1932. S. 84.

の様に變へられた。即ち(一)循環過程は何故に、一般的連帶的な、上昇と下降の運動を行はざるに至つたか。(二)何故に景氣運動は規則的に回歸せざるに至つたか。こゝではしかし、景氣理論には立ち入らない。²¹⁾

景氣的攪亂現象は、一定の發展段階に到達したる國民經濟に於て始めて現はるゝものであり、かゝる發展段階が資本主義經濟組織と云ふ一定の經濟構造なることは、既に一般の常識となつてゐる。景氣運動は資本主義的經濟組織の產物であり、これに固有なる現象であると云はれる。²²⁾しかしかく云へばとて、資本主義以前に於ては、經濟循環は何等の攪亂無しに、常に均衡狀態を保ちつゝ前進したかと云ふに、さう云ふわけではない。唯そこで「生産と消費、供給と需要の關係が、極めて均衡狀態に近かつたし、又上昇と下降の動搖は、現今見る様に、一般的現象として存在し得なかつた」²³⁾のに過ぎない。かくて景氣運動なる循環過程の一般的攪亂現象は、資本主義的經濟構造なる一定の地盤の上にのみ現はるゝものである。従つてかゝる地盤には、一般的攪亂の生じ得る様な素地若しくは條件が充分に包藏されてゐるものと考へられるのである。従つて亦かゝる地盤が失はるゝ時は、環環過程の攪亂は、若しあるにせよ、これまでとは違つた形態をとるに違ひない。

變動量とは、先に述べたる如く、經濟循環の中に現はるゝ諸々の經濟的數量である。かゝる意味に於る變動量は、云はゞ經濟循環の作りいだせる Produkte である。與件の變化は經濟循環を攪亂するが、その成果は、經濟循環といふ坩堝を通してその中に形成さるゝ變動量の一定の大きい

21) 尙近時、謂ゆる「景氣理論は如何にして可能なりや」(Löwe) の問題を取り扱つたものが、漸次その數を増しつゝあることは注目すべきことであらう。例へば Carell, E., Sozialökonomische Theorie und Konjunkturproblem. 1929. Oppenheimer, Zur Möglichkeit der Konjunkturtheorie. 1927. Weltwirtsch. Archiv. Lutz の上掲書、Preisner, E., Grundzüge der Konjunkturtheorie. 1933. など。

さとして凝縮する。變動量の大きさは常に不斷に動搖してやまない。若しそれ等の一切が一定の大きさを保つて動かないならば、それは經濟循環が靜態にあることを示すものである。變動量には數多のものが數へられる。(一)需要、供給、生産、消費に關する財の數量、操業度、就業率(量系列)、(二)物價、利子、勞銀、利潤、株價、貿易額、手形交換高(價值系列)などを擧げることが出来る。²⁴⁾

變動量の變動を形態の上から考察する。これは時系列の分析を意味する。こゝにはワグマンの分類をかゝるにとどめる。その目的は吾々としては、單に變動の態様を形式的に分析すると云ふ以上にはいでない。

1、一回限りの變化

2、周期的運動

(a) 非連續的

(a) リズミカルなもの

(b) 連續的(トレンド)

(b) リズミカルでないもの²⁵⁾

この中、1 即ち一回限りの變化をワグマンは構造變化と呼んでゐる。さうして今日では用語のかゝる使ひ方が一般的となつてゐる。しかし乍ら吾々は、構造變化と云ふ言葉にかかる意味には用ひない。吾々に於ては Dagen の綜合としての經濟構造の變化と云ふ意味に構造變化なる言葉を用ひる。さうしてこの言葉をかゝる意味で最初に用ひたのは Harms である。けれども吾々の云ふ經濟構造は、Harms の意味するところよりも、遙かに包括的なものたることは前述したる如くである。²⁶⁾ (未完)

22) 小川福太郎氏譯、ハンセン、景氣循環論。(昭和八年) p. 2.

23) Mombert, p., Einführung in das Studium der Konjunktur. 1925. S. 5.

24) 高田教授、經濟原論、p. 265.

25) Wagemann, Konjunkturlehre. 1928: S. 45.

26) 但し Wolf は次の様に云ふてゐる。“Nicht sonderlich anders als Wagemann definiert Harms die Struktur einer Volkswirtschaft, wenn er unter ihr verstanden wissen will ihre Formgesetzmäßigkeit oder die Ordnung, die die Beschaffenheit des Ganzen aus der Eigenart, Lage und Verbindung der Teile und die Beschaffenheit der Teile aus der Artung des Ganzen und seiner Zweckbestimmung erklärt.” Wolf, J., Konjunktur und Krise. Beiträge zur Wirtschaftstheorie. II S. 5. 尙 Adolf Weber, Allgemeine Volkswirtschaftslehre. 1929. S. 467. 參照。